

(1) 情報科学教育部会

教育部会名	情報科学
部会長名／作成者名	清光 英成
概要 (2 ページ)	
1. 組織・運営について 令和 5 (2023) 年度の情報科学教育部会は、国際文化学研究科 4 名、海事科学研究科 2 名、保健学研究科 2 名、工学研究科 1 名、システム情報学研究科 3 名、情報基盤センター 6 名、そして「情報基礎」の副担当として各部局からの教員 15 名から構成され、部会長 1 名 (国際文化学研究科)、幹事 3 名 (国際文化学研究科 1 名、情報基盤センター 2 名) が世話役となり運営している。	
2. 実施状況について 全学必修科目の「情報基礎」(23 クォータ)、共通専門基礎科目である「情報科学 1」および「情報科学 2」(計 14 クォータ)、基礎教養科目である「情報学 A」および「情報学 B」(計 8 クォータ) という教育目的の異なる 3 種類の授業科目を開講した。本年度は 4 月の第 1 週を対面授業、2 週目以降の講義を遠隔開講とした。「情報基礎」は本学の新入生全員 (受講対象者数 2,600 余名) および再履修者に対しておこなう授業であり、情報科学教育部会に属する教員および非常勤講師のべ 35 名の主担当教員と、各部局からの副担当教員のべ 21 名、および TA (SA を含む) のべ 24 名により行われた。「情報科学 1」および「情報科学 2」は国際文化学研究科、保健学研究科および非常勤講師により、「情報学 A」および「情報学 B」は工学研究科、システム情報学研究科の教員により行われた。 (1) 情報基礎 「情報基礎」は、本学で勉学を行う上で理解しておくべき最低限必要な情報リテラシーを身に付けるための 1 クォータ 1 単位の必修科目であり、2004 年度より実施しているものである。すべてのクラスで授業内容・授業計画を統一し、全学で運用されている e-learning システムである学修支援システム BEEF+ (以下 BEEF+) を用いた授業を行っている。4 月の開講第 1 週を対面式の授業、第 2 週以降は遠隔授業とし、2 週目は授業受講に必要なメールの設定、Office アプリケーションの準備が自力で完了しなかった学生の対面での支援を並行して行なった。昨年度までに作成したオンデマンド講義のための資料を更新、各回のテキストだけでなく、解説用ビデオを整備し、授業内容が容易に理解できるように務めた。遠隔講義での授業の進め方は、各クラスの担当者に一任した。クラスごとに Zoom、Teams、Slack、BEEF+ のお知らせや担当者へのメッセージなどを利用し、受講者とのコミュニケーションを円滑に行えるよう工夫をした。「情報基礎」では今年度も各回の授業ごとに部会独自のアンケートを実施した。アンケート結果は授業改善に用いるほか、授業中にアンケートについてコメントすることで受講生とのインタラクションにも役立てた。その他、附属図書館の利用について学ぶ「情報の活用」の回については、附属図書館情報リテラシー係がビデオ教材を作成した。また、授業中に行うオンライン小テストの回答状況や正答率、情報技術に関する現状や社会的な要求を考慮して、出題する問題の改善を行った。 (2) 情報科学 1/2 「情報科学 1」および「情報科学 2」については、共通専門基礎科目という位置づけで、学部・学科単位のクラス編成となっており、学部等の専門基礎としてふさわしい科目となるように、各学部の特性に応じて教授内容を工夫している。例えば、医学部保健学科対象のクラスでは、養護教員二種免許取得の際に必須となるため、一般的な情報技術だけではなく医療情報システム等を内容に盛り込んでいる。 今年度は対面授業に加えて BEEF+ 等を用いたハイブリッド (対面) 型遠隔授業も行った。授業時間外でも資料をダウンロードして自学自習に生かせるように工夫している。	

さらに、一部の授業では小テストを BEEF+で行い学生の理解度を素早く確認するとともに、理解度の低い内容については、次の授業時や、場合によっては当該の授業時間内に補足するなど素早くフィードバックすることで、学生の理解度を深める工夫を行っている。

(3) 情報学 A/B

「情報学 A」および「情報学 B」では、コンピュータやネットワークなど情報社会を支える技術についてのわかりやすい紹介だけでなく、教員の専門分野に基づいた先端技術の紹介も行い、高度情報社会で必要な幅広い基礎知識を習得できる内容としている。授業は対面方式で行われた。BEEF+にオンデマンドビデオ補助教材があらかじめ用意されるあるいは、学生からの質問事項への回答のためのビデオを作成するなど、非常によく作り込まれており受講者からの評価も高かった。

3. 課題について

「情報基礎」は令和 6 年度も教養教育院に申請し、オンデマンドを主体とした授業を実施することとなっている。毎年テキストや課題、小テストの内容を見直し、授業内容の更新を行ってきたが、遠隔授業の実施や、改装された BEEF+による教材提供方法の変化ならびにコミュニケーションツールの普及に合わせて、学生の情報リテラシーをさらに向上させる教材の開発を進める必要がある。学務部教育企画グループより依頼を受け、うりぼーネットで行なっている「入学・進学時アンケート」の回答率が前年度に比べ著しく下落した。これは、第 1 週目の教材の目立つところにアンケートへの誘導がなく、担当者より本アンケート回答するように指導することが徹底されなかったことが原因ではないかと考え、令和 6 年度は教材の冒頭にリンクを設定するとともに、担当者へ学内計算機資産の利用の例としてうりぼーポータルへアクセスする演習を実施するように依頼した。また、令和 7 年度より教科情報を履修した受講者への対応を関係教育部会と連携して進める必要がある。

4. 総合所見

授業については概ね順調に実施されている。授業アンケートの総合評価の値は 3 点台後半から 4 点台後半となっており、全体としては高い評価を得ていると思われる。「情報基礎」については、必携パソコン、Microsoft365、BEEF から BEEF+への移行に伴う教材の見直しを行なって準備を進めたが、継続的に改善していく。

A 組織構成と運営体制について

- ①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか (100 字程度)

情報科学教育部会は学内から 18 名および「情報基礎」の副担当として各部局より選出された 15 名から構成されている。部会長 1 名、幹事 3 名を置いており、その実施体制・運営体制は適切に整備され、機能している。

根拠資料

教育部会構成員名簿

B 内部質保証について

- ①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか (100 字程度)

「情報基礎」では各単元に独自のアンケートを行い、学生からの意見を収集している。また、担当教職員、TA を含むクラス担当者の連絡体制などを整備し、意見収集が可能な体制を整えている。

根拠資料

授業振り返りアンケート結果、BEEF+上の資料（アンケート結果）

- ②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150 字程度）

令和 6 年度も、遠隔授業実施に合わせ「情報基礎」テキストを更新し、講義用ビデオ等の整備をおこなった。

根拠資料

前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス（今年度の工夫）、情報基礎スタッフページ

- ③授業の内容及び方法の改善を図るための F D を組織的に実施しているか（100 字程度）

「情報基礎」のテキストおよび授業手順書を事前に BEEF に掲載し、授業担当者から授業前後に改善点等の意見を徴収している。

根拠資料

情報基礎スタッフページ上の資料（授業手順書）、神戸大学 SA/TA 実施要領・ガイドライン、SA・TA 採用者名簿、TA ハンドブック

- ④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるときともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100 字程度）

今年度も「情報基礎」には、履修生 50 名に 1 名の割合で TA または SA を 2 週分配置した。履修生からの質問の対応や採点補助(SA は除く)を行なっている。TA/SA を含む授業担当者のための授業手順書を用意し、業務内容を明確にしている。

根拠資料

シラバス、BEEF+上の資料（テキスト、プレゼン資料、配布資料）

C 教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100 字程度）

情報基礎、情報科学 1/2、情報学 A/B それぞれについて、適切な授業内容を設定し、到達目標を達成するものとなっている。

根拠資料

シラバス、BEEF+上の資料（テキスト、プレゼン資料、配布資料）

- ②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100 字程度）

共通専門基礎科目である情報科学 1/2 は学部・学科単位のクラス編成であり、学部等の専門基礎としてふさわしい科目となるように、各学部の特性に応じて教授内容を工夫している。「情報基礎」では、全てのクラスで同じ授業目標を設定している。

根拠資料

シラバス

- ③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100 字程度）

「情報基礎」、「情報科学 1/2」、「情報学 A/B」それぞれについて、適切な授業内容を設定し、到達目標を達成するものとなっている。

根拠資料

BEEF+上の資料、シラバス、教員用自己点検評価シート（様式 2）

④単位の実質化への配慮がなされているか（100 字程度）

「情報基礎」では、BEEF+上の資料で事前・事後学習が可能である。また、授業の理解を深めるため毎回の授業で、課題または小テストを課している。「情報科学 1/2」「情報学 A/B」においても、BEEF+上で配布し、授業時間外に閲覧し学修できるようにしている。

根拠資料

BEEF+上の資料、シラバス、教員用自己点検評価シート（様式 2）

⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150 字程度）

「情報基礎」では授業を実施するに当たっては共通の教材と手順書を準備し、すべてのクラスで同じ質の授業を実施できるようにしている。

根拠資料

各クラスの受講者数一覧表、担当者一覧表および座席、BEEF 上の資料（テキスト、授業手順書）

⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50 字程度）

全ての科目について、必須項目が全て記載されている。

根拠資料

シラバス、教員用自己点検評価シート（様式 2）

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100 字程度）

「情報基礎」は、全学必修科目であり、第 1 回に資料（「学生用ノート」）を準備して対面でガイダンスを行った。2 週目は本学の授業受講に必要なメールの設定、Office アプリケーションの準備が自力で完了しなかった学生の支援を対面で行なった。「情報科学 1/2」および「情報学 A/B」においては配付資料は BEEF 上に掲載し、随時閲覧できるようにしている。

根拠資料

シラバス、BEEF 上の資料

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100 字程度）

「情報基礎」に関しては、BEEF+の担当者へのメッセージ機能などで担当教員およびティーチングアシスタントに対して随時、質問が受け付けられるようになっている。今年度は、ZOOM や Slack による質問受付を行ったクラスもある。また、毎回授業アンケートを実施し、自由記述欄を設けている。「情報科学 1/2」および「情報学 A/B」についてもメールアドレスを案内している。一部の授業では、毎回のレポートなどに自由記

述欄を設け、質問などを受け付けられるようにしている。また、小テストを実施し、前回の授業内容が理解できているかを確認するなどの工夫を行っている。

根拠資料

シラバス、BEEF 上の資料、自己点検・評価シート（様式 2）

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100 字程度）

「情報基礎」については成績評価基準を全クラスで統一しこれにしたがって評価を行っている。「情報科学 1/2」および「情報学 A/B」については、シラバスに記載した内容に基づいて成績評価を行っている。優・秀が規定を超えた担当者は成績評価指針に従った成績分布になるように小テストの実施やテスト問題の難易度を調整し、改善された。

根拠資料

BEEF+の課題全体提出状況確認、成績集計システムによる自動採点結果、答案、成績分布、教員用自己点検・評価シート（様式 2）

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100 字程度）

「情報基礎」で独自に実施しているアンケートによると、授業評価（総合判断）は 4 以上であり、高い評価であると考えられる。「情報科学 1/2」および「情報学 A/B」の評価については授業評価（総合判断）が 3 点台から 4 点台後半であり、いずれも教育の成果や効果が上がっているものと思われる。

根拠資料

学生授業評価アンケート、BEEF+の「情報基礎」アンケート、教員用自己点検・評価シート（様式 2）